（十九日夕刊）

磐城新聞

休刊　大祭第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢
廣告料　雜報欄行五十錢（場所指定二千錢増）
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

露子と私の想出（上）

仲里法學士方　小泉貢

（1）

露子は跛だつた。松葉杖にすがつて、さびしそうな頬笑を浮べ！イんでゐる彼女をみては誰でもが涙ぐまずにはゐられぬだらう。

すき透るような白い顏、一寸險も總明そうな、美しい少女だつた。

彼女は先天的の跛ではなかつた、諸君は今だに、厭はしい記憶として腦裡に殘してゐるのでせう、アノ大正十二年九月一日の日を。

彼女の父は、本所區役所に勤めてゐた、小吏ではあつたが、物質にもさして不自由を感せぬ家庭であつた

露子は、女學校の受驗準備と避暑とを兼ねて、横濱の叔母の家にゐた、全滅と云はれた横濱にゐたのだから、彼女もアノ日にはサッフアラーの一人となつたのは是非もないことだつたらう。

叔母は前額部に硝子の破片で擦過傷を負つた、露子は右足をくぢかれた

東京の父や母やからの消息はなかつた

父や母や親友やを案じ乍ら彼女は病院の寢臺車に呻く身となつてゐた。父や母やの消息は杳としてその儘だつた

温き姿を以て身を擁して呉れた父や母やを失なひ、身また右足をくぢかれたる悲慘しい松葉杖の姿は、東北の郡山に淋ふてきた。郡山より奥まつた僻鄕の在に彼女の母の實家はあつたのだつた。

大正十三年の春、彼女は△學校に受驗して入學することが出來た。

「東京より來た、松葉の君はとてもおきやわ―」

「ぽんとうに松葉さんは醫生よ」

訛の這入つたアクセントを棄てゝハイカラな言葉を使つて女學生らしく露子を羨やんだのは、クラスメートの人々だつた。が、露子は二年で女學校を退いた、それは母の實家の窮迫してゐることを知つた彼女の、無理算段の費の支給を享けてまで、スクールライフをするのが耐えられぬといふ殊勝な心からだつた

可憐な露子は、横濱の叔母を頼らうと東北本線の夜汽車に乘つたのは昭和の新春、四月だつた。

そうして露子は、蓄を纏めて發刊にいそがしく同じく夜汽車に乘つて上京の途にあつた私といふ文學青年を知つたのだつた

（2）

私は、人懷こく、そしてさびしく頷笑みてセンチメンタルに語る露子の身上話を、文學青年の心境であるアノ、ロマンティックな甘やかなさびしさで聽えてゐた。

汽車は闇を衝いてゐた、夜汽車の中に低聲で語る身上話は、感傷な私を遣瀬ないものにした。露子も睫毛に涙を顯はしてゐたが、やがて大きく睫毛が搖れて、ボタリ涙が私の黒ケンドに落ちた。私は默つて彼女の手を握つてやつた、彼女は頷ひながら私の手を握り返したつけ。

明日の吉凶

舊曆十月二十六日　新曆十一月二十一日

△一白　身邊風の行ひあれば折角の吉も凶に變ず△二黒　元氣を養ひ遲くとも健全［illegible］進まざるに吉し△三碧　［illegible］に横八［illegible］越しの勇氣を鼓して進むべし△四緑　［illegible］妨げられ易し注意△五黄　心を虚ふし能く人言を容れて平和なれば吉△六白　午前の滯りは午後に至りて自から通達すべし△七赤　勞少くして効多き日旅行企業入學何れも吉△八白　隆運の日増築又は學業擴張には無二の好期△九紫　大學なる所で漕ぎ付けて後力の足らざる日

講談　血で血を洗ふ（191）

高橋掬太郎創作　布施平八郎撰講

銃砲組を備ふ

やがて春は過ぎた、そして若々しい緑に包まれた夏が訪れた。

天下の戰塵漸く納つて世は平和、薫風に豐臣の榮華を記歌し祝福したが本間昌康の領内だけは依然として血なまぐさい風が吹いて居た

天狗の假面の怪人の呪咀に松並木の若草を凄慘な血汐に彩られることが絶ねなかつた、昌康は激しい恐怖と憤怒に身をふるわし何かして怪人を討ち取らんと焦つた。

早間簿太夫や川越軍治も怪人を討たない内は枕を高く寢られ［illegible］がつた城内の武士はずつか、怖氣をふるつて［illegible］は勿論［illegible］、裏通りなど一人で歩かうとはしなかつたこれまで怪人も一人であらうと思つて居たが神部の邸の惨劇から怪人が數名であることが判つたあの夜約廿名の覆面者と從つて斬り込んだのは川越軍治であつた、そして第一の怪人を討つたが續いて現れた二名の怪人のために殆んど皆殺しにされてしまつたのであつた

川越軍治は逃げ歸つてそして更に捕方數名を指揮して馳せつけた時は怪人の姿は見ゑなかつた、庭に天狗の假面が一個落ちてゐたけれどそれが寶部左内が冠つてゐたものであらうとは氣がつかなかつた左内はやはり刺客の一人として斬り死したものであらうと思ひ、そして討たれた第一の怪人の死体は早くも持ちさられたものであらうと思つた

一人でさへ鬼神のように怖れた怪人が三人か五人か判らない一人は討たれて他に二人だけ姿を見たのであるが其の他何人いるか判らないそれを思ふと昌康始め一味の面々は怖氣立つた

「誰か怪人を打ち取る程の勇士はないか？」

と昌康は口癖のように云つた

「怪人を打ち取つた勇士には五百石の加增を取らすかどうぢや」

と云つた併し五百石よりも命が惜しいと見えて誰れもこの冒險を遂行しようといふ者はなかつた

城下の出入口や町の辻々に立札をして浪人の豪傑を募つたけれど怪人に敵ふ程の勇士はなかつた

「何とかいふ意久地ないことぢやされば家中に怪人を討つだけの勇士がないのか」

と昌康は毎宵のやうに機嫌が惡かつた

「何しろ指南役の吉村玄蕃殿や神部清左エ門迄討たれたのでござりますれば他に怪人に及ぶ程の勇士もないようでござりまする」

と重太夫が力なげにいふのであつた

「併し怪人は一体何者であらふか千世嬢を奪ひ清之助を盗み去つたのであるから此の上は如何なることを仕出かすかも知れぬぞ」

「左樣でござりまする神部清左エ門ではないしかも一人ではないのでござりますから何者でありませうや殆ど見當がつきかねます」

「次第に余の身邊に近づいて來るのではあるまいか？」

昌康は恐しげに云つた

「それは打人が申して居るのでござりますから次第に御身邊に追つて來るものと思はれます」

「うむ何とか怪人を妨ぐ方法はないか？」

「されば御側近く常に銃砲組をお備へ遊ばすがよかろうと存じます」

「うむ如何に天狗の怪人でも飛道具には敵ふまいのう」

と早速に銃砲組を側近く備へることになつた

廣告

正確な体温器と寒暖計は親切な
山野邊樂店
平町五丁目角

平町舊城跡
青沼醫院
電話四〇三番

平町南町
上田外科醫院
電話一二九番

三井呉服店の陳列會於新館
十一月一日ヨリ
◎今秋流行新製品
一ショール
一着尺モスリン
一友仙モスリン
商品豊富
◎店内には紅葉と自慢の菊花
京人形とアメリカ人形陳列是非御來觀の程奉希上候
◎たつとめ特價品
△白時雨毛一丈物　九十錢
△珍柄ネル一丈物　一圓二十錢
△白キャラコ足袋　二十錢
△黒朱子足袋　三十錢
△鬼コール足袋　二十八錢
平町三町目
三井呉服店
電話三十八番

期間　十二月末日マデ
梅　參圓也（御一人前　藝妓、車賃往復　御酒御料理三品）
松　五圓也（御一人前　藝妓、車賃往復　御料理五品）
櫻　七圓也（二人樣デモ差支アリマセン　藝妓、車賃往復　御料理七品）
（以上現金ニ限ル）
記
日々皆樣の御贔負に酬ゆる爲め左記の通り大々的勉強仕り候
是非引續き御愛顧の程御願申上候
松ケ岡公園池ノ端
割烹　ときわ
電二二六番

片濱自動車運轉
（平、高久、豊間、江名）
停留所
二丁目小川屋、四丁目泉屋
新川町松崎硝子店、月見町白土屋
月見町一二三屋、江名山口屋
電話…二一七番
　　…一四二番
御三人以上はお迎ひに参上致します
平町四丁目和泉屋旅館前
鈴木　片濱自動車商會

釀造元
銘酒　清世界
各炭鑛御用達
石城小名濱町
清水屋
小野晋平
電話六番

日東のラジオ
最新高級のラジオ製造販賣
並に部分品提供
御用命次第店員をお伺ひ致させ懇切御相談に應じます。
平町白銀町
日東商會
電話六五〇番

耳鼻咽喉科專門
入院隨時（自炊の便あり）
大和田醫院
平町南町（電一七〇番）

診察無料
如何なる重患でも直ちに癒る三丁目の大谷へ御出下さい
院長博士　敬白
大谷時計病院
電話一九番

深キ經驗ト正シキ學理ヲ基トシテ
最新ノ設備ト優秀ナル技巧ニ依リ
多産廉賣
益々聲價漲ル　萬年瓦
仙臺高等工業學校試驗證明
鐵道省
福島縣廳
栃木縣廳
青森縣廳　指定品
福島縣四倉町
萬年瓦工業株式會社
電話三八番

◎徒弟入用
徒弟契約ニ付テハ年明キニ際シ有利ニ御相談申上候
金牌一等賞數回受領
磐城國平町
草野染工場
電話三四八番

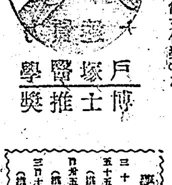
初夏の惱み
生殖機能衰弱
神經衰弱
△倦怠衰弱を覺ゆる
男女は注意せよ

トツカピン

生殖器衰弱徴候
△遺精、夢精で日增しに衰弱する
△精力衰微して、根氣なくなる
△早漏、陰萎、無精となる
△視力が減退して、肩が凝る
△容色年寄臭くなり、意氣消沈
△身心倦怠、腦力減退す

神經衰弱徴候
△頭が痛いボンヤリして氣が鬱ぐ
△物忘れし易く、勘違ひする
△決斷力鈍く、グズグズの人間となる
△何でもないことに恐怖を感ずる
△眠い癖に夜分安眠不能
△逆上せ易く、便秘し易し
△息切、動悸がして、胸苦しい
△感情に激し易く、涙脆くなる
△婦人はヒステリーとなり、嫉妬する

變だ……と思ひ乍ら、つい多忙にまぎれて、ウカウカと日を送つて居る裡に、症狀は一歩一歩惡化するのです。本廣告を讀んだ瞬間、冷靜に我身に還つて、右記症狀の一つでも自覺すれば直ちにトツカピンを服用せられよ。トツカピンは生殖器、神經、精力の絶對強壯劑にして、人生幸福を多大ならしむる卓絶せる藥効は海外にまで名聲を擅にし、實驗男女は偉大なる何物かを得たるが如き心强さを體驗せしむる唯一の現代文化藥である。



戸塚醫學博士推奬

藥價
三十錠　三円
五十五錠　五円（振替送料付）
百廿五錠　拾円（振替送料付）
三百十錠　廿円（振替送料付）
（用量）一回一錠　一日三回

發賣元
東京市銀座新肴町六番地　振替口座東京七二三二番
丁子堂藥房
大阪市西區立賣堀北通二ノ九　振替口座大阪百六番

天子樣の俺も赤子だ お役に立つて見たい望み
廿八才で兵隊檢査を受ける 平町の事實物語り

無籍者として徴兵檢査をさい受けずに濟んだ男が今二十八才の明三年四月平町で壯丁檢査を受ける對にも珍らしい青年の喜話、內郷村磐城炭礦宮炭坑採炭夫金成市郎君こそは實にその主人公である市郎は本籍戸主及び續柄等一切不詳で我も無ければ親類もなき無籍者として、小さい時から宮炭坑に働いて居た無籍無籍の彼れはただ働らくことより外には何も知らなかつたのである、然るに彼は星霜彼れは本年二十七才になつた、これ前彼は同じ坑に働く內町立町九才四番地金成彦造の長女ハツヨ(二八)と親しい仲となつて居た、そして去る十月中旬晴れて結婚の式を終へし婿養子となり金成を名乗つて平町戸籍へ記入されることになつた。そして明年二十八才 國民三大義務たる徴兵檢査を受けることになつたのであるが、彼は非常に喜んで俺も天子様の赤子であるお役に立つて見たいもよと血湧き肉躍る喜びをだゝいてゐる

平町今年の 除隊兵 壯丁百五十名

平町の明年度に於ける壯丁者は百四十九名であつて本年度百四十七名と大差ないが今年十一月の除隊兵は次の如くである

長瀬耕平、根本濱治、八十久吉、鈴木寛、小菅俊雄、馬目哉治、小夢榮治、古川龜太郎、大野壽吉、佐川秀四郎、眞根井衛門、中井信雄、島崎初平、渡邊孝一、柏原光太郎、佐々木道雄(兵役免除)藤城鶴松、根本菊義、松本壽次

白井家の寄附で 事業範圍倍加
あす理事會を開く 磐城育英會事業

白井博之氏が教育事業に熱心なりし先考遺の翁遺志を繼ぎ過般財團法人磐城育英會に金一萬圓の巨額を寄附することとなつた旨既報の如くこのため從來資金關係にて

當初計畫 の事業遂行上常に隔靴搔痒の感なきを得なかつた同會では今回白井家の寄附により一躍資金の倍加を來し郷黨育英の事業上茲に殆ど劃期的の事業擴張を斷行し得ることとなつたので明廿日磐城中學校長室に於て理事會を開き今後の事業計劃に就て詳密なる協議遂べる筈であると云ふが由來同會は明治四十年創立されたるものにして大正十四年十月財團法人に組織に改め當時現在の資產通常資金約九千九百圓郡制記念貸付金二千圓合計金一萬七百九十圓四十錢を有し現在貸費中のもの十六名貸費滿期のもの二十一名則ち創立以來の貸費生合計三十七名に達し創立以來茲に二十年其間終始一貫して

地方育英 上に一大貢獻をなしつゝあつてもので今回白井家の寄附により今後同會に於ける事業の範圍は一躍從來に倍加し必然の結果として來春以降の卒業生に對しては貸費の希望を容れ得る事蓋し從來に倍するものあるべく彼此白井家今回の寄附は地方教育界に一大センセイションを起し殊に富裕ならざる一部青少年學徒の間からは地方育てなき天資の福音として迎へられてゐる

江名町民に檄す（下）
小名濱　小野生

◎斯く詮し來たれば、小名濱町と江名町が別に敵視反目の必要なく、共業を同ふして居る關係から隣接町村として、常に握手して、共同の事業に當るべき筈である、然るに相互間に此連絡のなきは將來の破滅を來たす源因ではなかろうか

◎江名町の地理的立場は小名濱に及ばない、江名濱の町是は漁業に依つて確立するか、小名濱の町是はそれとは趣きが違ふ、江名町は大体から見て、保守的に居り、小名濱町積極的に進まねば町是の確立は遂に望む事が出來ぬ、兩町の現在は適に兩端に立つて居る之をして更に隔離せしむるが爲めに江名町が有利であるか、接近せしむと爲めに兩町が不利であるかは、敢て識者を俟つて後知るべきであるまい

◎隣保親善、吾國が支那に向つての主張であるが如く、兩町が尤も能く握手すべき大精神は隣保親善でなければならぬ、此精神の芽生いが、軈て兩町の發展の基礎となる事は言ふまでもない、燒津港の繁榮を吾儕は江名漁場に移したい、燒津港が清水港に寄與するが如く小名濱港に寄與するが眞に江名漁場發展の大計を樹立する大方針である事を信ずるものである

◎江名町と小名濱町の立場は斯くて違ふ、故に其町是として確立すべき對照物も相違して居る、即ち彼此相寄り相助け以て各く其機能を助長するに依つて、採長補短の握手こそ、兩町發展の方策でなければならぬ江名町が如何に藻掻いても地理的天の配劑には反抗出來ぬ、三面續きに丘岳交通の設備亦小名濱町に劣つて居る、此等は兩町共力して江名町開發の爲めに行通機關の整備に意を注がば、片道迂回線を待つの要蓋しなきに到るであらう

◎以上述べ來つて、熟慮する時、坐ろに感を深ふするものがある、江名町の開發は他力主義に進まずして自力主義に進むの一事である、江名町は自ら縣會議員を送つて縣の事業をして地方化たらしむべしである、他の町村より選出されたる他力主義に甘すべからざる事である小名濱町か縣會議員を出してより發きに漁港成り、而し今亦で商港の實現目睫に迫つて居る、自力主義の效果以て知るべしではないか、何せ隣町より出づる候補者の爲めに反對の行動を取るの要あらむ、軈ては自町に報いらるべき傾を作つたと見らるゝも、致方なきにあらざるなきか

◎要するに問題は隣保親善であと、他の進展を羨まず、相互に長所を取て、我物として以て、町將來の大計を樹立に努力するは江名町中心人物たるもの、尤も必要とする見界なりと敢て檄する所以である

時潮は竿さして 新人を起用
代議員選擧に當り 石城政友倶樂部

石城郡政友倶樂部幹部會は昨十八日午後一時より同倶樂部に於て開會した、開會の主眼は近く本縣政友支部長並に支部幹事長の改選に直面し各郡とも縣會議員を回數の代議員を選出し右改選に當らしむるもので部會長安島重三郎氏外幹部出席種々協議の結果安島會長座長となり六名の代議員として草野欽一郎、阿部政右エ門、伊藤淺之助、遠藤俊一郎、赤洋庄兵衛、門馬倉次郎の諸氏を指命し右代議員は近く出福の筈であるが石城政友會は時潮に竿し飽まで新人を起用した事は非常に肯傾に價あるものとして注目されてゐる

平警察署の 火防督勵 煙突檢査執行

平署では火災期節に入つて火防の督勵に努めてゐるが明廿日去前八時から平消防組と共力全町に亘つて煙突其の他火災豫防の檢査を執行する事となつた

小名濱町の 陪審員抽籤 三氏當選す

石城郡小名濱町の陪審員資格者は百十四名にして十八日午後一時より町役場で鈴木町長、高木助役並に小野務平、岡山重喜、小野德三、飯塚榮一郎諸氏立會の上抽籤の結果立花雄七、金成寅之助、小野長松の三氏當選した

獻穀品評會 大山技師の審査

飯野村佐鹿久嶺神社主催の同村秋作農產物品評會は來る廿六日午前八時から同社境內に於いて開催する事に決定したが郡農會大山技師審査の上で入賞者には農會賞を授與する筈である

幼稚園を開設 平町

材木町坂本シン氏は材木町三三番地に平信樂幼稚園を設立男女兒童六十名を收容明三年四月五日より開始すると

川上樂劇團來演
純眞無邪氣な一行 平劇場で公開

通俗講演界の赤斗久留島武彥氏を相談役とし明治劇壇の女王ともいふべき川上貞奴のひきゆる川上兒童樂劇團の公演が平青年團主催の下に來る二十一、二の兩日平劇場で開かれる同劇團は世界唯一つたると稱せられる程の愛らしい少年少女の集まりによつて作られた藝術團で此れ迄帝國劇場その他で數回の公演をなし滿都の人氣を集めて大きな成功を納めて居り今シーズンの休演期間を利用してその純眞無邪氣な藝術によつて我々を醉はさうとしてゐる、一行の得意とする處は音樂と舞踊と演劇の三要素から成り立つもので如何にも面白く組立てられた頗る教育的なものであり又父兄にとつても家庭的の美はしい娯安となるものである一行は約七八十名大道具、小道具全部帝劇上演の際のものを持ち來り公演プログラムも左の如き數回の公演に既に手なれたもののみを選び指揮者とし優れた提琴家であると共に指揮者である高階哲夫氏が來平伴奏その他關係のオーケストラを指揮する筈であるプログラム左の如し

◇1生田葵氏作「鏡」一幕◇2オーケストラ「ウイリアム・テル」高階哲夫氏指揮◇3澁澤青花氏作「蟹と盲人」一幕◇4瀨川森郎氏作「白虎隊」三場◇久留島武彥氏作、高田雅夫氏振付、高階哲夫氏作曲岡本歸一氏舞臺裝置「釣鏡草」一幕◇瀨川春郎作並に演出高田雅夫氏振付、高階哲夫氏作曲、岡本歸一氏舞臺裝置「目ざめ」一幕

續々として出る 伊達小僧の舊惡
出獄直後荒し廻り 平署嚴重取調中

既報去る十六日高久村に潛伏中を遂に平署刑事連の爲め逮捕された稀代の土藏師伊達小僧事伊達郡伏黑村生れ當時不定前科六犯鈴木鼎(三二)は其の後青田部長が主任となつて嚴重取調べを續けた結果昨十八日に至り遂に包み切れず驚異すべき次の如き犯行一切を自白した、即ち今者二月中水戸刑務所を出獄すると直ちに當地方に流れ込み既報の如く高久村箱崎滝吾氏方の土藏を破つて衣類其の他約五百餘圓分を竊取逃走したのを手始めに伊達郡長岡の土木請負業田中瀧太郎方の土藏を破つて羽二重七疋衣類三十餘點純金製恵比壽、大黑像、貴金屬製品二十數點此價格千五百圓を竊取更らに五圓中同様手段を以つて伊達郡山木九右エ門、朽木倉三外四軒の富豪を襲つて土藏を破り衣類其の他を竊取し本日までに自白してゐるので流石の刑事連も彼れの巧妙さと大膽振りには舌を捲いて驚ろいてゐた尙鼎が此の驚くべき犯行の裡面には定りの女があるが判明した即ち信夫郡湯上町遊廓內花月樓の娼妓キミ子を情婦としてゐたもの、贓品は殆んど各地の質屋に入質し高久村には僅かに二行李に收めた贓品を殘すのみである

養蠶家の經濟に 桑苗自家生產
接木を廢して曲取に 郡養蠶組合奬勵

石城郡桑苗の生產地は大浦村植田町地方でこれ等兩町村の附近は桑苗生產熱が最も盛んである縣下における桑苗總生產は二千二百萬本中石城郡生產は百五十萬本であるがその中には田村郡山地方からの移入もある桑苗生產の將來は樂觀を許さないものがあるこれについて石城養蠶同業組合では桑苗生產向上發達のため各町村をして自家生產たらしめるやう奬勵をなし現在流行してゐる接木は粗雜な結果をまねくのでこれを廢し曲取り及び代出苗による方法を指導奬勵し石城郡における生產增加さへ計ることになつたが石城郡生產の計ることになつたが石城郡生產の桑苗は極めて品質良好で他地方から好評を博してゐるが遺憾ながら生產がまだ／＼少いので困つてゐる狀態で追々自家生產になれば他地方に相當賣捌かれることであらう、因に桑苗の取引期は今十一月中旬から來年三月頃まで、昨今夏井村を筆頭にボツ／＼桑苗の取引出荷が始まつて來た

土農工商を選んで 平町の陪審員
きのう抽籤の結果 當選者決定す

平町陪審員候補者抽籤は今十九日午前十時より町役場會議室に於て伏見町長以下星野淸吉、吉田五平、柏原與吾三氏立會の上行れたが資格者六百五十四名の中右の十五名が選定された

山崎宜吉、大津賀善吉、平澤傳吉、猪狩菊三郎、久野柳助、宇佐美甚藏、奥山庄作、深谷新吉、吉田寅之助、鈴木寅次郎、江尻淺之助、關內半平、酒井秀次郎、藤原己之松、中野勇吉

の諸氏で最年長者が安政二年生れ大津賀善吉翁、最年少者が明治三十六年生れの宇佐美甚藏氏ある外は大低四十才前後の分別盛りであるが土施中學校教員、紋屋料理屋、金貸、靴製造業、土木請負業、呉服商農業等で概して商人が多く筋肉勞働者はなかつたと

かみくづ

◇貸座敷營業は時代に添はぬといふので逸早く目覺めた五色町の同業者中料理屋か待合に轉業し、從來抱ひの娼妓を廢業せしめて酌婦に改め、大に薄利多賣をやつたら儲かるだらうは成ほどヨイ思ひ付き、大當りは請台だ◇新田町湖月の月子は其名に因んで眼が三日月のやうに、また蜜柑ならば皮を剝いて實を二つ列べたやうな細下つた目をしてゐる、怒るとき其の眼尻か上るかへと聞くと、妾怒つた事はないワ、ヂャア無神經だ、アラマア無心の氣なんかチッともない事よ。

勿來町農會 聯合農會主催で

勿來町農會並に同町農業專修學校の聯合農產物品評會は來る廿四日專修學校に於いて開催する事に決定郡農會大山技師審査の筈であるが出品點數既に百點を越へ盛會を豫想されてゐる

小名町々會の 運動協議會 けふ町役場に

小名濱町では今十八日午前十時より町役場に町會議員有志の協議會を開き來る二十日より開會上程する本縣縣會の小名濱港豫算通過に對す運動其他について協議した

○田町の一有志へ！御注意有難ふ御座います、仰せに從ひ適當な時と處とを見て御忠告に副ふ樣に致したいと考へます
（逆沼）

常磐第一ノ大炭礦タル磐城炭礦ノ石炭
㋡石炭と「コークス」の特長
一、目方ノ正確
二、品質ノ優良
三、配達ノ迅速
ドーシテアンナ良イ品ヲ、ソンナニ安ク賣レルカト驚カレ一度使ヘバ永久ニ御使ヒ下サルノガ當店石炭ト「コークス」ノ特長デス
値段正十貫目一俵金六十五錢也
平驛前 ㋡阿部石炭商店 電話二三七番

本年ノ流行 ショール 澤山荷着
◇格安品豊富ニ店內へ陳列シマシタ
◇製産地ヨリ直接安價ニ仕入レマシタカラ御覽下サイ
㊁ツルヤ カクニ石鹼本舖 平 四 電百四十

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋 ㊅釜屋商店 諸橋久太郎
電話九番 一三一九番 振替貯口金座東京一〇九五六番
確實敏捷は㊅の生命なり

十一月十九日ヨリ ぜひお立寄下さい
五日間福引大賣出し
大英斷景品 ただ買上壹圓ニ付福引景品券差上マス
一等 時計 弐本
二等 支那鞄 四本
三等 洋傘 六本
四等 美術袋物 十本
五等 セトモノ 弐十本
六等 ハンカチ 五十本
七等 以下一本モ空籤ナシ
當店は 飽く迄も「親切第一」を信條といたします 「小さくとも堅い店」を標語と致します
袋物カバン洋品雜貨 ヨドヤ雜貨店